



# ASAKOIHITO REPORT 2014

朝来市地域おこし協力隊

あさこいひと

レポート 2014

あさこ  
兵庫県北部の山あいのまち朝来市。  
そこへやってきた6名の若者たちの  
挑戦とライフスタイルの記録集。

---

[www.asago.hyogo.jp](http://www.asago.hyogo.jp)





2014年4月1日、  
兵庫県朝来市地域おこし協力隊「あさこいひと」が  
結成されました。

全国から集った年齢・性別・経歴…何もかもバラバラな6名が  
朝来市に新たな息吹を吹き込み、  
村を、まちを、そして人々を少しずつ賑わせています。

ここでは隊員の活動をご紹介します。  
この記録集を読んで、  
朝来市という場所、そこで暮らす人々が気になりはじめたら、  
あなたも「あさこいひと」になれるということ。

「朝が来るまち」があなたを大きく育み、  
あなたも「朝が来るまち」を変えていける。  
共に歩む、次の「あさこいひと」を私たちは待っています。

#### 《あさこいひと宣言》

いま朝来市で暮らす人が よりこのまちを愛せるように  
このまちに遊びに来るひとが また来たいと思えるように  
そして 次の朝日が昇るとき 笑顔で一日が迎えられるように

「あさこいひと」はだれよりも強く朝来に恋をして  
みんなと話し合い 協力し合い 時には自らが太陽となり  
朝が来るのが楽しみなまちとなるように  
朝来の新しい朝を照らします



RYOTA SHINOHARA > P8  
篠原 諒太  
観光振興のための  
組織の立ち上げ!

TAKAYUKI KATO > P7  
加藤 貴之  
限界集落、  
買い物難民を  
サポート!

SHOHEI MATSUKI > P10  
松木 祥平  
地域の良さを発信、  
そして賑わいを  
創出する!

TSUYOSHI YOSHIHARA > P9  
吉原 剛史  
農業!宿の開業!  
そして雇用促進!

MIKI IMAMURA > P5  
今村 未希  
事業者の誘致・  
立ち上げを  
サポート!

NAOKO SHIBATA > P6  
柴田 菜穂子  
まちの特産品を  
販売する  
ショップを!

# What's Your Mission?

#### 地域おこし協力隊

「地域社会に貢献したい」「人とのつながりを大切に生きていきたい」「自然と共存したい」…。  
今、都市に住む人たちがさまざまな理由で豊かな自然環境や歴史、文化等に恵まれた「地方」に注目しています。  
地域おこし協力隊は、人口減少や高齢化等の進行が著しい地方において、地域外の人材を積極的に誘致し、その定住・定着を図る

ことで意欲ある都市住民のニーズに応えながら、地域力の維持・強化を図っていくことを目的とする取組です。  
具体的には、地方自治体が都市住民を受入れ、地域おこし協力隊員として委嘱し、一定期間以上、農林漁業の応援、地域資源の発掘・活用、住民の生活支援などの各種の地域活動に従事していただきながら、当該地域への定住・定着を図っていくものです。

#### 活動期間

地域おこし協力隊員は、おおむね1年以上3年以下の期間、地方自治体の委嘱を受け、地域で生活し、各種の地域協力活動をおこなっていただきます。

#### 朝来市では

地域が求める活動と、地域おこし協力隊自らが実現したい活動や、活動したい地域などの意向をマッチング。地域力の維持・創出に資する活動を展開しています。また、隊員自身のそれぞれの

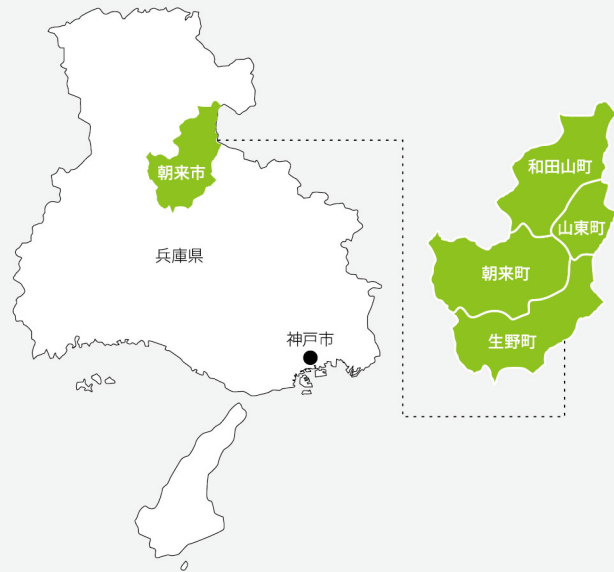
ミッションが実現に繋がるよう、そしていきいきと活動ができるよう、フォローアップ研修の開催や隊員の状況に応じながらきめ細やかなフォローアップ体制を整えています。



## 朝来市について

朝来市の北部は養父市と豊岡市に接し、南部は神崎郡、東部は京都府、丹波市、多可郡、西部は宍粟市に接しています。新市は南北約32km、東西約24kmの範囲に広がり、日本海へ流れる円山川や瀬戸内海に流れる市川などの源流地域で兵庫県の南北の分水嶺でもあり、総面積は402.98平方キロメートルで県全体の4.8%を占めています。

### 《朝来市の位置》



### 《朝来市の人口》

平成22年国勢調査人口			平成17年	対平成17年国勢調査人口（一は減少）	
総数	男	女	国勢調査人口	増減数	増減率（%）
32,814	15,727	17,087	34,791	-1,977	-5.7

### 《朝来市の世帯数》

平成22年国勢調査世帯数		平成17年	対平成17年国勢調査世帯数（一は減少）	
世帯数	世帯数	国勢調査世帯数	増減数	増減率（%）
11,655	11,655	11,808	-153	-1.3

## 市内の自然・史跡



豊かな自然と数多くの遺産が残る朝来市。茶すり山古墳を始めとする多くの古代遺産、国史跡の竹田城跡や日本有数の鉱山として栄えた生野銀山、また、由緒ある神社・仏閣、各地に伝わる伝統芸能などの歴史文化遺産、

## アクセス

朝来市は、兵庫県のほぼ中央部に位置し、京阪神からは鉄道、高速道路等を利用しておよそ1時間半から2時間で、また、姫路からはJR播但線や播但連絡道路等を利用しておよそ1時間で直結する距離にあり、但馬・山陰地方と京阪神大都市圏を結ぶ交通の要衝の地にあります。



### 《JRご利用の場合／山陰線・播但線 和田山駅下車》

大阪より特急で約2時間10分（JR福知山線経由）  
 神戸より特急で約2時間（JR播但線経由）  
 京都より特急で約1時間50分（JR山陰本線経由）  
 鳥取より特急で約2時間（JR山陰本線経由）

### 《自動車ご利用の場合》

**中国自動車道（福崎IC）→播但連絡道路（和田山IC）下車**  
 大阪より約2時間／神戸より約1時間30分

**中国自動車道（吉川JCT）→舞鶴若狭自動車道（春日IC）→北近畿豊岡自動車道（和田山IC）下車**  
 大阪より約1時間50分／神戸より約1時間30分

**国道9号線利用**  
 京都より約2時間30分／鳥取より約2時間

そして四季折々の自然に包まれたキャンプ場、公園、温泉などが市内には数多くあります。これらの多くの遺産を有効に利用しつつ、広域交流拠点のまちとして「あなたが好きなまち・朝来市」をめざします。

今村 未希 (28)

MIKI IMAMURA

担当エリア: 生野町



「新陳代謝の良い人」。今村隊員の印象である。生野町の事業者へのプレゼンテーションの場。まちづくりの今後の構想について、明朗快活な声が響く。

学生の頃から活動的で、高校2年生で初めて海外へ。一人旅を通じて、「世界というフィールド」「英語を使った仕事」への願望を抱き、カナダの大学に進学。帰国後もヨーロッパへ留学と、一つ所に留まることなく、国際関係学や社会政治学を学ぶ。そんな中、国連のインターンとして滞在了したネパールにて、発展途上国の実情を知った。「人口の安定的な増減と地域経済の発展。これは先進国・後進国両方が抱える課題だと痛感しました」。大学で学ぶことは机上の空論かもしれない。この問題に「現場に入って」挑戦したいと思った。

ちょうどその頃、SNSで1枚の写真が目にとまった。朝来市生野町のトロッコ軌道跡（写真1）。その写真の記事は地域おこし協力隊募集の告知であり、業務内容を目とすると「空家活用」「新産業の開拓」とある。「これはつまり人口政策、経済政策だ！」と、思い

カフェオーナーへ、今後のまちづくりのビジョンを共有。町内の事業者も今村隊員の活動に期待を寄せている。

## このまちに輝かせたい人がいる。



1 かつて鉱山町として栄えた生野町にある「トロッコ軌道跡」。今村隊員と生野町とを結んだきっかけであり、お気に入りの景観でもある。2 老若男女問わず、今村隊員と話していると笑顔がこぼれる。3 生野町のまちづくりのビジョンを共有するため図にまとめた。

立ったら即行動の今村隊員。生野町を訪ね、地域の人と語り、応募を決めた。「この仕事を通して学ぶことは多いです。何度も会って初めて聞ける話がある。これは世界共通だなと思いました。今は生野のことを学ぶことが大切。そのためにも多くの人たちや文化と出会いたい」。また、活動の中で難しさを感じたことも。「初めてすることばかりで、何事も手探り状態です。周りも私自身も地域おこし協力隊の仕事とは何かを知らないで、出来ることは何かを見つけることに必死」。

この夏、アメリカ・ポートランドへまちづくりのヒントを求めて乗り込んだ。「ポートランドは“35歳以下が最も住みやすい町”と言われています。そこから学べる点は多い気がします」。それらを図にまとめ、町内の事業者と共有している。国境を飛び越え、世界最先端の事例を生野町のまちづくりの参考に。海外での活動経験がある今村隊員ならではの。

「生野には面白くてキラキラした人が大勢います。何より、皆さんは生野が大好きなんです。だから、私は生野の人の夢が実現できる環境を整えたい。そして生野を、生野の人を素敵だと思う人に移住してもらいたい。このまちに輝かせたい人たちがいるんです。生野町を照らす“明かり”は今日も忙しく各地を巡っている。

### Profile

滋賀県大津市出身。高校卒業後、カナダへ渡りインテリアデザインを学ぶ。帰国後、社会に関わる仕事に就くため大学へ入り、卒業。インターンとして国連での活動に参加した経歴を持つ。現在、地域おこし協力隊として朝来市生野支所地域振興課に所属。





柴田 菜穂子 (30)

NAOKO SHIBATA

担当エリア:生野町口銀谷地域



兵庫県姫路市出身の柴田隊員。神戸市のアパレルメーカーに勤務するOL時代、休日はローカル線に乗り一人旅に出かけることが楽しかった。朝来市生野町との出会いも3年前の休日。「吸い込まれるように」ふらっと生野駅で下車した。「ノスタルジーというか、昭和の雰囲気が残っていて、まるでタイムスリップしたかのようなまちなみにすごく惹かれたんです」。その後、生野町に何度も通うようになり、様々なスポットを見て回った。その中で芽生えたのは地域活性化に携わりたいという気持ち。あるとき、朝来市のホームページで地域おこし協力隊募集の告知を発見し、「これしかない!」と思ったものの、退職するタイミングが折り合わず断念。しかし追加募集がわかり、担当エリアも生野町とのこと。迷うことなく応募し、7月から着任した。

この生野町で柴田隊員が実現を目指すのが、地域の人の交流スペースの開設だ。「私のミッションの一つに特産品開発があります。生野町に既にある特産品に付加価値を付けるということ、新しい特産品を開発すること。しかしそれだけでなく、販売する

チャンネルまで作りたいと思っています。カフェを併設し、観光客と地域の人が交流する場を作りたい」。前職では新規店舗の立ち上げ・マネジメントなどを担当していたこともあり、柴田隊員の強みが活かせる。手造りの特産品は製造工程を知るため現場に足を運び、実際に製造を手伝うようになった。

また生野町内の女性事業者の会「女子会」をサポート、「生野マルシェ」というイベントに定期的に参加している。「各店舗がそれぞれにお店を開き、ただお客さんを待っているだけではありません。一体となって色々な場所に出向き、各店舗の紹介、そしてまちのPRを“チーム生野”で取り組んでいきたい。

柔和な雰囲気、少しおっとりとした語り口は、はつらつとしたメンバーが揃う朝来市地域おこし協力隊の中で異色とも言える。しかし、よくよく話を伺うと、他の隊員にも負けない、芯の強さを秘めていることが感じられる。「まだまだこのまちで実現させたいことがたくさんあるんです。史跡・生野銀山に訪れる観光客をまち歩きに誘導したり、生野マルシェを都市部で開催したり…地域ごとの連携を強めて、一体となった取り組みを展開していきます。

小柄な見た目からは想像できないパワフルさ。柴田隊員の存在は生野町の大きな推進力となりつつある。

### Profile

兵庫県姫路市出身。大学卒業後、神戸市のアパレルメーカーに就職。新規店舗の立ち上げなどに携わる。趣味であった一人旅で生野町に下り立ち、以後も訪れるようになる。7月に地域おこし協力隊として生野町に着任。現在、いくの地域自治協議会に所属。



1 イベントの協力要請に、生野町の事業者のもとへ足繁く通う。2 特産品のクッキー。その製造に進んで参加。3 生野町内の主な女性事業者が参加している「女子会」。男性顔負けのパワフルなトークを取りまとめる柴田隊員をはじめとした生野町の地域おこし協力隊員。

“チーム生野”で取り組んでいきたい。

加藤 貴之 (31)

TAKAYUKI KATO

担当エリア:生野町奥銀谷地域



過疎の地区での昼食会に参加し、一人一人と会話をを行う。年配の人からの何気ない一言が活動のヒントになることも。

長い手足をリズム良く振ってしなやかに歩く姿は、まさに現代に蘇った「飛脚」。少年時代からまち歩きに熱中し、「歩く」ことをビジネスとして成立させようと、30歳の誕生日に「飛脚の加藤」として独立した。「重いものは運べませんが、想いは運べます」をコンセプトに始めた、徒歩による全く新しい運送業。飛脚として単身アフリカに渡り、帰国後は大使館を巻き込んだイベントを開催したこともある。

そんな異色の経歴を持つ加藤隊員。世界各地を歩いて旅する中で地方、特に日本の田舎の面白さを感じ、拠点を田舎に移そうと考えた。そして旅の中で知りあった各地の地域おこし協力隊が、田舎を舞台に活躍する姿を直に見て、自身も隊員になりたいと説明会に参加。「40ほどの自治体がブースを出す中に朝来市がありました。朝来市の名前は当時全く知らなかったのですが、募集内容が私の希望と合致したこと、担当者の強い熱意を感じて応募しました。地域ごとの課題と要望を掘り下げ、欲しい人材を的確に設定していたことも安心でした。

配属された奥銀谷(おくがなや)地域は古くから生野銀山の鉱山町として栄えていたが、閉山後は過疎化が進み、商店の撤退も目立っていた。そこで与えられたミッションの一つが買い物難民の支援。「地域に馴染むため、ひたすら歩いて回りました。まずは歩き、自分の目で地域をとらえることが必要だと思ったんです。その結果完成したのがマイ奥銀谷マップ(写真3)になります。次に、地域の人と会い、行事に参加し、会話をすること。これも重要なことで、この活動の中からおぼろげながら地域の課題がイメージできてきた気がします」。自身の持つ「飛脚」という職能を活かして、「地産地消のお惣菜」を売り歩く移動店舗を開店することが現在の夢である。

数々のイベントも地域自治協議会と連携して開催している。「奥銀谷に必要なものは“楽しさ”。鉱山が栄えていたころは行事や祭りも多く、若々しい地域だったと聞いています。買い物支援による便利さも必要だけど、“楽しさ”も生み出したい」。加藤隊員の屈託のない前向きなキャラクターも大切な要素である。子・孫の世代にあたる彼の存在が、地域の人たちの気持ちを動かしつつある。

かつての鉱山町を縦横無尽に走り回る「現代の飛脚」が、どんな喜びを地域に届けるのか。楽しみでならない。

### Profile

東京都板橋区出身。大学卒業後、IT企業に就職、その後アイドルのマネージャーを経て、2013年に「飛脚」として独立。アフリカを450km歩いて日本からの土産を歩いて届け、アフリカと日本の架け橋となる。現在、地域おこし協力隊として奥銀谷地域自治協議会に所属。

地域に必要なものは“楽しさ”。



1 地域自治協議会内にある「ふれあい喫茶だんらん」でウェイターをつとめ、地域住民との交流も。2 年配の人と一緒にレクリエーションに興じる。はじめはぎこちなかった関係も、何度も通ううちに打ち解けた関係に。3 地域の人から直接聞いた“昔話”が盛り込まれた「マイ奥銀谷マップ」。





「あさご青春物語〜とおきの18の風景〜」制作風景。  
モデルの高校生たちと冗談を交わしながら、撮影は和やかに進んだ。

休耕田となり荒れていた畑を一から整備。  
夏の早朝、涼しい時間に鎌を入れる。

篠原 諒太 (25)

RYOTA SHINOHARA

担当エリア: 朝来市全域



頻繁に鳴り響く電話と慌ただしく歩き回る職員の姿。天空の城・竹田城跡をはじめ、観光に関する業務・情報を管轄する朝来市産業経済部。市内の観光の“最前線”と言えるこの部屋にデスクを構えるのが篠原隊員だ。大学ではグラフィックデザインを専攻。卒業後、兵庫県神戸市で開催されたデザイナー主導の、子供たちによる夢のまちづくりイベント「ちびっこうべ」にスタッフとして参加した。「その活動を通じて、行政にデザイナーが加わることで、まちづくりのあり方も変わるのはと確信したんです」。朝来市にゆかりのある親戚から地域おこし協力隊の募集を聞かされ、自身の職能を発揮するフィールドとして朝来市を選んだのだった。

この夏、さっそく篠原隊員が制作を手がけた「あさご青春物語〜とおきの18の風景〜」というフォトブック(写真1)がある。朝来市の景観をこれまでにない切り口で撮影した一連の作品は、見る者の脳裏に新鮮な感覚を与え、懐かしい記憶を呼び起こしてくれる。朝来市民とは異なる視点を持つ篠原隊員だからこそできた表現である。

「僕が朝来市で実現しようとしているのは観光振興のための中間支援組織の立ち上げです。わずか数ヶ月ですが、市役所職員の立場から地域に関わることで見えて来た良い点・悪い点は少なくありません」。例えば、市内随一の観光スポットである竹田城跡。その竹田地域で、行政サイドと住民サイドで考え方・段取りの進め方に大きな溝があることを知り愕然とした。「それでも地域おこし協力隊として、竹田地域には吉原隊員が、市役所には僕がいるということは大きい。互いに協力し、一体となって竹田地域を盛り上げていける体制がすでにあるんですから」。竹田地域で開催された「あさごはんの会」も、篠原隊員と吉原隊員、商工会に所属する松木隊員、そして生野町担当の3人の隊員の強みを束にして、初めて開催できたイベント。「互いに信頼感があり、率直な意見や愚痴も言い合えるのでやりやすい」。今後進むであろう中間支援組織の設立に向けても、他の地域で活動する隊員との連携は欠かせない。

総合的に地域の声を取りまとめる作業は半歩可なことではない。しかし、最年少でありながら自信に満ちた篠原隊員の言葉に、その期待が一層高まった。「僕の役目は地域同士の連携をよくすること。だから僕をうまく利用してほしい」。

### Profile

兵庫県神戸市出身。東京、大阪のデザイン事務所にてデザイナーとして勤務。その後、神戸市にてフリーランスとして働きながら、「デザインの知識を使ったまちづくり」のイベントに多数参加。現在、地域おこし協力隊として朝来市産業経済部観光交流課に所属。



### 地域の連携をよくしていきたい。



1 見る者に爽やかな記憶を呼び起こす「あさご青春物語〜とおきの18の風景〜」。2 先輩職員と打ち合せ。思ったことを遠慮なく言い合える雰囲気がある。3 朝来市地域おこし協力隊の中で最年長の吉原隊員(左)と最年少の篠原隊員。2人の連携が竹田地域活性化の鍵となる。

吉原 剛史 (40)

TSUYOSHI YOSHIHARA

担当エリア: 和田山町竹田地域



バイクを駆って世界65カ国を旅した経験を持つ吉原隊員。その旅のエピソードは実に豪快であり、世界と、そして吉原隊員の持つスケールの大きさを思い知らされる。しかし協力隊員としての活動においては、緻密で丁寧に練り上げられた計画を実践。地域に溶け込み、住民からの信頼も厚い。

「オーストラリアで働いていた頃、そして世界を旅している最中、僕は“日本代表”という意識を持っていました。出会う人々は僕を通して“日本”という国を見ている。その中で僕自身は海外から故郷・日本を眺め、経済活動や社会構造について危機感を抱くようになりました」。そして世界旅の合間に帰国した際、朝来市地域おこし協力隊の募集告知を偶然発見。地域から日本を変えていきたいと応募し、観光地として脚光を浴びる天空の城・竹田城跡の麓へ着任した。そして数ヶ月が経ち、竹田地域はその可能性を活かされていないと指摘する吉原隊員。「あれほど観光客が多いにも関わらず、雇用がなく移住者もいない。そこで僕自身を通じて雇用を生み出すために、“複数の生業”を興すことにしました」。

“複数の生業”とは「農業」「観光業」「狩猟」「イベント業」など。このうちいくつかは実際に計画が進んでいる。

「まずは農業の実践、つまり百姓になりました。百姓とは“百の生業”、つまり1つの職能では成り立たない。人間としてのライフスタイル、全てに関係してくるんです。簡単に言うと、生きている実感があるということ。まずはそれを体現したい。」さらに空家を宿泊施設に、耕作放棄地をクラインガルテン(滞在型市民農園)にと、もともと地域にあった資源の整備・活用にも取り組む。また、竹田地域の住民と朝来市地域おこし協力隊が連携し、食イベント「あさごはんの会」の第1回目を竹田駅前で開催した。吉原隊員が取りまとめ役を担い、地域への協力要請と広報、SNSを利用した情報発信により、想像以上の活況を呈した。

これほど多岐にわたる活動を支える原動力は何なのか。「簡単なことです。それは“楽しむ”ということ。僕らは試金石です。先駆者として、地域にそっぽを向かれると次の移住者に繋がらない。そのためにも与えられた環境をどう最大限楽しむか。そうしないと人も集まりませんから」。

豪快と緻密、世界と地域。相反する事象を兼ね備える吉原隊員が、竹田地域から日本に変革をもたらす日はそう遠くない。

### Profile

東京都足立区出身。オーストラリアの大学を卒業後、大手金融企業に勤務。オーストラリアに16年間在住する。その後、3年半かけてオートバイで世界一周し、4大陸のべ65カ国を巡る。現在、地域おこし協力隊として竹田地域自治協議会に所属。

### 僕らは地域における試金石。



1 鹿を解体し肉を薫製に。狩猟免許を取得し獣害対策にも取り組んでいく。2 第1回「あさごはんの会」の中心的存在として、準備のみならずマスコミ対応も担当。3 竹田駅前で行われた「あさごはんの会」の様子。早朝にもかかわらず100名以上の参加者が集まった。





## 松木 祥平 (38)

SHOHEI MATSUKI

担当エリア:朝来市全域



松木隊員を語る上で思い浮かぶ単語は「学者肌」。朝来市の印象を尋ねると意外な言葉が返って来た。「僕が一番気に入ったのが『日本ハンザキ研究所(※)』なんです。都会で生まれ育った僕らの感覚からすれば、身近に特別天然記念物があることがすごく衝撃的で。実は朝来市を志願した理由の一つです。また、大学時代に文化人類学・民俗学を専攻していた松木隊員ならではのコメントも。「引越して来て驚いたことは地域の人たちがお地藏さまを丁寧に祀っていたこと。お化粧を施し、新しいお堂を作り、花を供えて。こちらに来て、初めて見ました」。

そんな研究者タイプの松木隊員、ミッションは市内全域の観光事業の活性化だ。そのためまず、天空の城・竹田城跡のある竹田地域で活動を展開している。「実は竹田地域には商店がそれほど多くありません。最寄りの竹田駅前に商店街を作るべく、観光客の多い土日祝日は、竹田地域のまちを歩いて現状をリサーチ、把握しようとしています。具体的な動きも出てきた。朝来市商工会と竹田地域、まちづくりNPOが竹田駅前に共同で作る施設に、松木隊員が担当する交流カフェがオープン予定である。

また、朝来市のアンテナショップを京阪神エリアへ出店する計画も進む。「朝来市は神戸や大阪からの小旅行先と考えれば、とてもアクセスがよい。全国からではなく、まずは阪神間にターゲットを絞って集客を目指します。観光の仕組みづくりを手がけるのに、手の届く規模だと思います」。竹田地域と都市部にショップを構え、2拠点でのPR活動を目指す。さらに前述のハンザキにスポットを当てた計画も。「ハンザキを見に行く自然体験も含めたツアーを考えています。生物好きでアウトドアが嫌いな人はいない。また、ハンザキグッズをアンテナショップのほうでも販売したいですね。地域をポップカルチャーで盛り上げたい」。

現在は商工会にデスクを構えており、このことも活動に役立っているという。「朝来市全域が担当エリアなので他の隊員との連携が重要になってきます。行政サイドに篠原隊員がいますが、僕は民間サイドからバックアップしていきたい」。

このまちで実現したいプランを矢継ぎ早に語る松木隊員。朝来市は彼にとって探求の余地がいっぱいの魅力的な場所なのだ。

※NPO法人日本ハンザキ研究所…オオサンショウウオの専門研究機関、環境学習・交流施設及び博物館。「ハンザキ」はオオサンショウウオの標準和名。

### Profile

兵庫県神戸市出身。大学院修士まで文化人類学・民俗学を学ぶ。フリーペーパーの広告営業・取材、IT技術者等の経験がある。現在、地域おこし協力隊として朝来市商工会に所属。

## 仕組みづくりにちょうどよい立地。



1 ハンザキ(オオサンショウウオ)の生態調査にも参加している。2 竹田地域では神輿をかつく秋祭りが毎年盛大に行われる。松木隊員と同じく竹田地域に自宅を構える吉原隊員(右)と。3 空き家となっていた町家を自宅に。近所の方から野菜などお裾分けいただくことも。

## サポーターの声

隊員が普段からお世話になっている朝来市の方々にそれぞれの活動と今後への期待をうかがいました。



P5 今村隊員  
栃原農産物加工所 | 木下 三千雄さん

加工所では地元の農作物を商品化し地域に届けています。つまり地域経済活性化の肝となる場所。そこに今村さんが応援に来るようになり、少しずつ活気が生まれてきています。彼女にはアイデアやネットワーク、そして発信力がある。これからは共に盛り上げていければと思います。



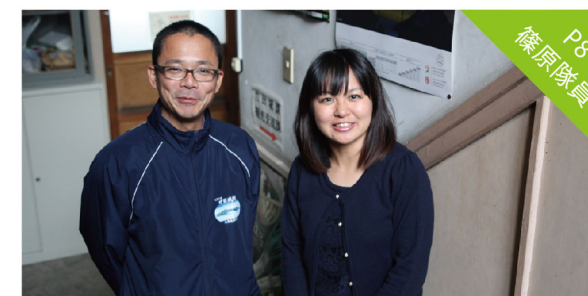
P6 柴田隊員  
いくの地域自治協議会 | 花尾 定義さん

今の生野町を活性化させるためには何が必要か。移住してきた柴田さんだからこそ気付くことがあるはず。アドバイスはしますが、彼女の自主性を尊重し、のびのびとまずは活動してもらいたいです。また隊員としての任期が終わった後も、ぜひ生野で活躍してほしいですね。



P7 加藤隊員  
奥銀谷地域自治協議会 | 白瀧 彰さん(右) 白瀧 迪子さん

加藤君は「息子」のような存在。東京で生まれ育った彼と、ときどき一緒に食事をしながら、生野の地で暮らす知恵などをお話しています。彼は人脈も広く活動的なので、それを生かして3年目を迎える、この奥銀谷地域で花を咲かせてほしいと思います。



P8 篠原隊員  
朝来市産業経済部観光交流課 | 和田 幸司さん(左) 夜久 涼子さん

篠原隊員が観光交流課にもたらしたものは冷静かつ客観的な意見、そしてスピード感でしょうか。また「外」と「内」の意見をうまくミックスしてくれます。これらは彼の強みですね。隊員としての活動を通じて、朝来市での生業を確立してほしいと思っています。



P9 吉原隊員  
ありがとんぼ農園 | 岡村 康平さん

吉原君とは「あさごはんの会」や竹田地域のイベントと一緒に活動してもらっています。とにかく一緒にいて楽しい男。僕の所には若手農家の卵がよく研修に来るんですが、彼らのためにも、農業の活性化、宿泊施設の開業といった目標をぜひ達成してほしいです。

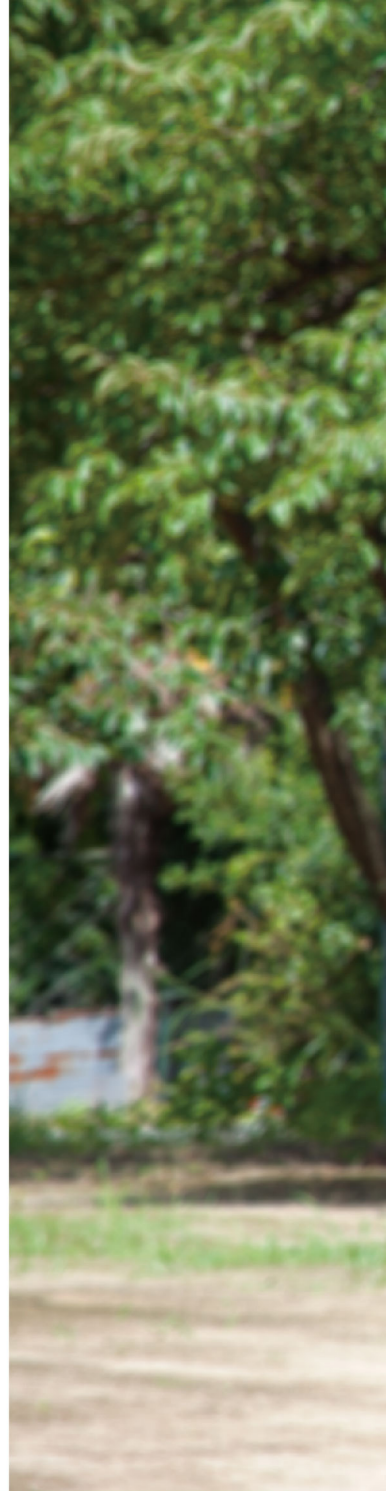


P10 松木隊員  
朝来市商工会 | 上谷 大介さん

松木隊員には商工会の一員として、竹田地域の活性化のため、まずはアンケートの調査の実施・分析といったリサーチ能力を存分に発揮してもらっています。ただ、それだけではもったいない。今後の期待も込めて、より積極的に「地域のつなぎ役」になってもらいたいです。







発行：朝来市

お問い合わせ：079-672-6110（朝来市市長公室総合政策課）